川村学園女子大学研究紀要　第 28 巻　第 2 号　49 頁 − 65 頁　2017 年

小学校教育における地域連携による「総合的な学習の時間」の実践法
――単元「21 世紀夢の小学校プラン」の実践を通して――

猪　瀬　義　明*

A Teaching Method of “Period for Integrated Study” in Elementary School in Coorperation with a Community

Yoshiaki INOSE

要　　旨

本稿は「総合的な学習の時間」の質的向上をめざした実践の報告と省察である。

その実践例として，野田市立南部小学校の 4 年生の「総合的な学習の時間」の単元「21 世紀夢の小学校プラン」の実践を取り上げた。その単元の成立の状況，単元活動の過程，単元のまとめ方等を詳しく紹介し，省察することにした。そして，「総合的な学習の時間」の本質を明らかにし，次世代の実践法の質的向上をめざした。

なお，本単元は，新教育課程に登場する「総合的な学習の時間」の移行期の先行的な実践研究，野田市立南部小学（平成 10 ～ 13 年度）校の実践例であり，その中の平成 13 年度（9 ～ 10 月期）4 年生の単元「21 世紀夢の小学校プラン」（地域連携等）である。

なお，本稿の構成は，南部小学校の実践事例，同校の省察，筆者の省察と解説の順となっている。

キーワード：地域連携，総合的な学習の時間，課題解決学習，体験学習，子ども主体学習

はじめに

1990 年代末期，時代は，高度経済成長期がピークを越え，バブル経済が崩壊した時期であった。人々の生活は，エコノミックアニマル的活動や大量生産・大量消費が持てはやされた時代から，一人ひとりの個性の尊重や生活の質の向上が求められる時代への転換点に差しかかって

*教授　特別支援教育論

いた。教育界もマスプロ教育・学歴偏重教育からの脱皮が試みられていた。そのとき最重要視されたのが「生きる力」である。それは，子ども主体の学習及び共生社会の実現を願ったカテゴリーでもある。その中核となる授業が「総合的な学習の時間」である。

当時の状況を「野田市立南部小学校研究紀要平成13年版」の巻頭言に詳しく記述されてあるので引用することにする。以下，［研究紀要］と略記する。

「次年度平成14年4月から新学習指導要領が完全実施されます。いよいよといった感じがします。平成12年度から13年度にかけて，移行措置が取られました。それは，新学習指導要領の実施に際し，子どもたちが〈ゆとり〉をもって『生きる力』を身につける，完全学校週5日制の実施にともなって，各教科等の基礎基本をマスターするため学習内容の精選等の趣旨の徹底を図るためのものです。

本校においても，新学習指導要領の趣旨に沿って，教育課程等がスムーズに移行できるように，平成10年度より教育課程開発委員会（CDC）等を設置し，それ以降の年度毎に検討を加えながら，教育課程の改善を行ってきました。その中で，新学習指導要領の主眼である『総合的な学習の時間』に焦点をあて，実践研究してきました。本研究集録は，4年計画中の4年目のまとめにあたります。」[1)]

このように「総合的な学習の時間」は，新しい時代の子どもたちを育てていく教育の担い手として登場した。本稿は，この「総合的な学習の時間」の実践例を詳細に省察し，次の時代の実践法に結び付けられるように試みたものである。

1．実践報告

次に，授業の概要を知るため，［研究紀要］の中から単元の概要の部分を引用する。

（1）単元の概要

「4年生は1学期の総合的学習の時間に『くらしのパトロール隊』（総合56時間　社会科36時間，理科10時間）という単元を展開してきた。この単元は社会科の学習「安全なくらし」を中核にして，そこから発展させた5つの小単元からなる学習である。― 中略 ―これらの学習の発展として，21世紀に生きる子ども達が考える小学校の夢プランを考えた。子ども達が自分たちのために安全で快適でしかも楽しく過ごせる小学校を自分たちで考えることは有意義なことであると考えたからである。この学習では子ども達が自分自身のコンセプトで夢を描くことに重点をおいた。そして，それらの夢を実現するための情報収集には文献調査と共に，ア

ンケートやインタビュー，市役所の方の学校建設の話や目の不自由な方の話を聞くなどの方法が主になった。

環境を考えた学校，自然がいっぱいの学校，安全な学校，遊べる学校，学べる学校，体の不自由な人々や高齢者や幼児を含めた地域の人々との交流ができたり，コンピューターを全面的に取り入れた学校にしたりするなど様々なアイディアを生かした夢のプランを作った。実現化できるアイディアから奇想天外なアイディアまで多種多様な夢のプランができた。

また，平成15年には南部小の学区にある「みずき」地区に新しい小学校が開設されることになり，この学年の子ども達（今上下地区・今上上下谷地区・みずき地区・西新田地区の子ども達が対象予定）が6年生になったら入れるということもこの単元に現実味を加えた。

実際にできた夢の小学校のプランは，野田市教育長と教育委員会の先生方に手渡した。その中の何点かは実際の小学校作りに反映されるようである。実際に6年生になって通学する子ども達にとって，自分が夢のプランを考えた小学校だと一層の愛着を感じるかもしれない。また，南部小でそのまま学ぶ子ども達にとっても，夢の小学校を考えていくことで，現実の小学校生活や施設面について主体性をもって，具体的に改善すべき点を見つけることに寄与していくと考える。」[2)]

それでは，この単元がどのような経過をたどっていったか，活動の様子を詳しく知るために活動内容，児童の活動・思い，教師の支援，児童の活動の様子等の概観を追いかけてみたい。

(2) 単元活動の経過

31時間　1時間は，1単位時間（45分）扱い [3)]

段階	活動の内容	時間	児童の活動・思い	教師の支援	時数の増減と理由 児童の活動の様子
第一次	オリエンテーリング	2時間	◎みずき地区に小学校が建設されるという時期に，自分たちが考えた理想の学校について体育館に集まり，書く。	○「くらしのパトロール隊1号から6号」までの学習を振り返り，楽しい学校ができるように意欲を高める支援をする。	計画通り ◇児童の自由な発想から様々な学校が考え出された。とてもタイムリーな学習だったので，児童の意欲は高かった。
	チーム毎にテーマを決める	1時間	◎チームを決め，話し合ってテーマを絞っていく。	○チームの人数は3人までとし，はっきりしたテーマが持てるよう支援する。	◇テーマを絞るのに苦労していたが，同じテーマの児童同士がうまく組むことができた。

第二次	テーマにそって調べ学習をする。	9時間	◎チームのテーマにそった夢の学校を作るために必要なことを調べ，計画を立てていく。 図書館・図書室の本・インターネット・テレビ・ビデオ・インタビュー・アンケート・電話等 ◎市役所の方に，さらに知りたいことについて質問し，自分達の学校づくりの計画を具体的なものにしていく。 1組グループ（K講師担当） • 福祉，環境，安全 2組グループ（T教諭担当） • 校舎，校庭，施設 3組グループ（M教諭担当） • 生き物（植物，木） 4組グループ（U教諭担当） • 学校生活，きまり 5組グループ（S教諭担当） • 生き物（動物，昆虫）	○テーマにそった調べ学習ができるように，的確な方法を一緒に考え，助言する。 ○友だちにわかるように，具体的なものがあった方がよいことを話す。 ◎市役所の方に迷惑がかからないように，事前に打ち合わせを行う。質問をするのは代表児童であるが，要点をおさえて質問するように支援する。 こんな図書館がいいな 	2時間増 ◇どこから資料を集めるかで，時間がかかったチームもあったが，色々な方法で資料を集めていた。 ◇同じ資料を何人かで読み合うために，時間がかかった。 ◇学校だけでなく，休日に集まって活動したチームもあった。また，欅のホールや南部図書館へ資料を見つけに行く児童もいた。
	夢の学校になるようまとめをする，	7時間	◎調べてきたことを友だちや読者に分かるようにまとめていく。 • 絵・紙芝居・設計図・模型ＯＨＰ・ビデオ・劇・新聞実演・インタビュー・歌・ペープサート等 教育総務課長さんの話 	○まとめ方について，前時までにそれぞれのチーム毎に決めてあるが，再度確認してから取りかかるよう支援する	3時間増 ◇各グループとも，グループ毎の特色を生かした様々なまとめ方をしていた。 ◇まとめの段階であれもこれもと，やや盛りだくさんになってしまったことが，時間が増えてしまった要因である。 ◇チームによっては作業の丁寧さに随分差が見られた。大まか過ぎるチームは何度も助言し作業を続けるよう励ました。
第三次	夢の学校を発表する。	6時間 学校公開3時間	◎各チームでリハーサルをし，発表する。 ◎いろいろな発表を見て，みんなの夢の学校を知る	○分かりやすく丁寧な言葉で発表できるよう助言する。 ○友だちの発表のよいところを見つけられるよう助言する。	3時間増 ◇リハーサル及び準備に時間をかけた。 ◇教室と体育館では雰囲気が違うため，慣れるまでに何度か練習を繰り返した。

					◇発表は多彩であったが，もう少し声の大きさを考えた発表できるような支援が必要であった。 ◇学習参観にも保護者向けの発表会を実施するため時間をかけた。
第四次	まとめる。 提言する。	3時間	◎今回の学習を通して考えた夢の学校を，計画書としてまとめ，野田市長，教育長に見てもらう。	○みんなの夢が叶うようにきちんと丁寧にわかりやすくまとめることが大事であることを話す。 市長さん・教育長さんへ 	2時間増 ◇自分たちが考えた学校をみてもらいたいと願う気持ちから，丁寧に書いたので，時間をかけた。 ◇代表ではあるが，児童の手で計画書を渡すことができたことをとてもうれしく思っていた。

(3) 単元活動のまとめ

上記のような単元活動を展開してきた訳だが，同校では次のような児童の活動状況，発表状況のまとめをしている。

「自分たちが6年生になる時，分離校ができることが決定。新しく学校ができる。何もないところからの出発となる。では，自分たちに何ができるか，ということでこの活動が始まった。先ずオリエンテーリング。それぞれの教師から理想の学校像を話した。同じような理想を持っている者同士でチームを決定し，テーマを絞っていった。そして作戦開始。必要なことを調べ，計画を立てていく。市役所の方に来ていただき，計画をより具体的なものにしていった。大きく5つのグループに分け，5名の担任のもとで活動。各チームでリハーサルをしてから，友達，教師，そして保護者に発表。子ども達は皆生き生きと活動していた。今回の学習を通して考えた夢の学校を，計画書としてまとめ，野田市教育委員会教育長に見てもらった。」[4)]

2. 子どもたちの活動の様子[5)]

それでは，子どもたちは，どのような活動をしていたのか，輝いていた子どもたちを取り上げられていた事例について，記述してみたい。

「**◎福祉グループ（Ｓさん，Ｋさん）**

視覚障害者の話を聞いていく中で，バリアフリーとはいかなるものかということに気づき，興味・関心を示すようになった。特に，新しく造る学校には点字ブロックやスロープなどを設置したいという願いを持つようになった。

◎環境グループ（Ｎくん，Ｍさん）

省エネルギーという観点から，ソーラーシステムに興味を示し，図書館から資料を探し出し，大きな新聞を作るなどして，意欲的に取り組みことができた。

◎安全グループ（Ｋさん，Ｙくん，Ｕくん）

学校における転倒防止にポイントをしぼり，事故発生の場所や発生時の天候等をアンケート調査などから集計し，グラフ化して統計的にまとめていた。意図していた結果とは多少異なるが，まとめること自体には積極的に取り組んでいた。

◎施設グループ（Ｓくん，Ａくん）

夢の校舎を考え，模型にして生き生きと発表することができた。段ボール箱を材料に，次から次へと発想したことを付け加えていく姿を見ることができた。豆電球や種々の部品を自分達で用意するなど意欲を見せた。特にＳ児はこの活動を通して自分に自信を持てたようである。Ａ児が欠席した時も一人でがんばっていた。

◎植物グループ（Ｅさん，Ｗくん，Ｍくん，Ｆくん）

学校内に薬草園を造るため，図鑑で調べたり，アンケートをとったりしながら，身近にある薬草探しから始めて，効果効用を知り，何回も薬草作りと実験を繰り返した。大きなバナナの葉を家から持参し，実際に自分の身体につけてつるつるなるということもわかったが，学習公開の日には，一般的なドクダミ茶と柿の葉茶の試飲を中心として薬草のアピールしていた。薬草で自分の身体は自分で守っていけるようにしたいという気持ちのよく表現できたグループだった。

◎学校生活グループ（Ｎくん）

安全で危険な人物が入り込まないような学校にするにはどのようにしたらよいかとアイディアは出せるのではあるが，それを皆にわからせるような具体物にすることが苦手であったが，絵を描くことが得意な子２人の応援を得て，少しずつ自分からやりだした。ダンボールで校門

の模型が作られてくると，またアイデアが豊富に出せるようになり，安全対策としてＩＤカードを差し込まないと学校に入れないように考えた。学習公開の日には，このＮくんの考えを取り入れて４年生全員と参観者に各自のＩＤカードを画用紙で作り，この男子の許可を得ないと夢の小学校に見たてた体育館には入れないようにしたため，はりきって活動し役目を果たした。

◎動物グループ（Ｓさん）

動物を学校で飼うために，どこでどんな動物を飼うか，食事や糞の始末のことについてまで，細かく調べた。ペープサートでお話風にして発表した。学習公開当日は，チームメイトが欠席したが，何度も練習してきたので，一人でも堂々と発表することができた。」[4)]

3. 野田市立南部小学校の単元の考察

これからは，この実践がどのような理由で研究テーマを設定し，どのような方向を目指し研究してきたのか，また，どのように研究内容を捉えていったのか述べることとする。そしてその実践の結果，その成果と課題をまとめることにした。

(1) 研究テーマ設定の理由

このことについては「総合的な学習の時間」の実践研究の根幹となることなので，少々長文になるが，［研究紀要］の内容を全面的に引用する。

「これからの教育で大事なことは，子ども達が本気になって学習活動に専念し，子ども達自らが『生きる力』を向上させることである。『生きる力』とは，自分で課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し行動し，よりよく問題を解決する資質や能力であり，また，自らを律しつつ他人とともに協調し他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性であり，たくましく生きるための健康や体力である。

『生きる力』のある子ども達の育成とは，主体的に学ぶ力・豊かな心・たくましい体力のある子ども達の育成であり，知・徳・体のバランスのとれた子ども達の育成をめざすことである。それは，本校の教育目標である『たくましい子・はたらく子・よく学ぶ子』がめざしているものと同じである。『生きる力』を向上させるために，新学習指導要領の教科等の枠を越えた『総合的な学習の時間』の趣旨にあわせた単元を開発していく必要がある。従来，細分化されてきた教科指導を，子ども達の側にたって，子ども達個々の問題としてとらえるならば，横断的・総合的な学習がでてくるのは必然である。加えて，国際化，情報化など社会的な要請にこたえる教育は，もはや今までの教科等の枠組みでは対処できない。

しかし，横断的・総合的な学習の本義は，教科の軽視にあるのでないことはいうまでもない。これまで，教科の枠にとらわれて学習が分断的になりすぎていたことへの反省に立ち，教科の枠にとらわれずに，より充実した学習を実現させようというところに，横断的・総合的な学習の意義がある。その単元で行われる学習内容が，一つあるいは複数の教科に相当するものであったり，どの教科とも言いきれない場合があったり，一つの教科から出発して必要に応じて他の教科・領域の学習が加わってきて，結果として横断的・総合的な学習になる場合があってもよい。が，旧来の教科のあり方そのままでよいというわけではない。教科のあり方そのものを，『生きる力』とどうかかわるかという観点から問い直す必要がある。

学校教育の本義は，子ども達が本気になって学習活動に専念し，『生きる力』を向上させることにある。そのためには，子ども達にとって，自分のものと感じられるような目的がある単元を作ることが必要である。子ども達は目的に向かって活動し，目的に照らして自らの活動を見直しながら，目的達成に向かって活動を進めていくのである。」[6)]

この文章が書かれた時代は，学習指導要領の改訂の直前であり，教育課程の移行期であったが「総合的な学習の時間」の先行研究として存在価値が十分ある内容となっている。

(2) 研究の方向

次に同校の研究の方向性を省察してみたい。(研究の方向性については，南部小学校としての見解は，［研究紀要］p3-5 に記述されてあるが，ここでは同校の実践を踏まえたうえで，筆者の省察と見解を述べたい。)

同校では，研究の方向性として，以下の九つを挙げている。

①必要感のある機会と場を設定する。②大らかな構えで単元計画を立てる。③ゆるやかな時間設定をする。④学習者の目的（夢）を大事にする。［段階Ⅰ 目的意識をもつ（夢を描く），段階Ⅱ 目的に向かって活動をする（夢を実現していく），段階Ⅲ 目的達成をする（夢を実現する)］，⑤学習のプロセス（過程）の中で，子どもの心の中に起こっている学習を大事にする。⑥その子なりに伸ばす。⑦安心感ある授業をする。⑧教室の壁を越える。⑨個に即して評価し，支援に生かす。

それでは，それぞれの項目を詳しく追いかけてみたい。

①必要感のある機会と場を設定する。

近隣の「みずき地区」に新設校が建設されるという計画が立ち上がった。子どもたちは，自分たちも学校建設の当事者として関わりたいという願いをもっていたと思われる。教師たちは彼らが主体的に参加できる状況設定をおこなった。将に「夢の小学校づくり」は，

子どもたちにとって必要感のある機会と場になった。

②大らかな構えで単元計画を立てる。

子どもたちの課題に対する理解の程度，試行錯誤の機会の保障，新たなチャレンジへの時間の確保等と考え合わせれば，大らかな構えの単元計画が必要である。（例，リハーサル及び準備に時間をかけた。自分たちが考えた学校をみてもらいたいと願う気持ちから，丁寧に書いたので，時間をかけた。等）

③ゆるやかな時間設定をする。

自分で課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決するためには，ゆるやかな時間設定は，不可欠である。本単元ではゆとりをもって時間設定した効果が調べ学習や発表準備も活動によく現れていた。

④学習者の目的（夢）を大事にする。

段階Ⅰ目的意識をもつ（どのような小学校にしたいか夢を描く）

段階Ⅱ目的に向かって活動をする（夢を実現していくための調べ学習をする）

段階Ⅲ目的達成をする（夢の実現のために，市長・教育長に単元活動のまとめ「21 世紀夢の小学校プランの手紙」を届ける）

⑤学習のプロセス（過程）の中で，子どもの心の中に起こっている学習を大事にする。

ゆるやかな時間設定の中で，その時その時に，起こっている子どもの心を大切にしている様子が分かる。例，「まとめの段階であれもこれもと，やや盛りだくさんになってしまったことが，時間が増えた。」等々

⑥その子なりに伸ばす。

前述，「子どもたちの活動の様子」[5] より，その子なりの力が育ってきたといえる。

⑦安心感ある授業をする。

単元終了後，一人ひとりの子どもたちが満足感・成就感を得た授業であった。学年の代表が市長に手紙を渡した様子を報告し，「市長さんが快く受け取ってくれました」と発表すると，子どもたちの間から，自然と拍手と「バンザイ」の歓声が上がった。等

⑧教室の壁を越える。

「21 世紀夢の小学校プラン」の手紙の野田市長・野田市教育委員会教育長，教育総務課長の学習参加，校長先生はじめ全先生方，夢プランアンケート（4 学年保護者の方），視覚障害者の方，薬局の方協力等々　教室の壁を越えた単元活動であった。

⑨個に即して評価し，支援に生かす。

「生きる力」の評価は，個人内評価でなくてはならない。「生きる力」が育つかどうかは，

教師の支援（できる状況づくり）にかかっている。詳しくは次章で述べる。

(3) 研究内容

研究内容は，学校としての研究課題も含んでいるので，次のようなことを同校の教師たちの共通理解のもとに以下のとおりとした。

「①児童の実態を把握し，学年として『めざす子ども像』と『生きる力』との関連を図る。

②「総合的な学習の時間（輝き夢時間）」を活用した学年や学級（3年～6年）での教科横断的総合単元の開発（授業研究）をする。

但し，1・2年の学年は，生活科，「なかよし学級」は，生活単元学習の単元で参加する。

③校外行事・社会科見学を総合単元化する。

④各教科・道徳・特別活動等を「生きる力」を伸ばす視点での単元化と年間計画を作成する。」[7)]

(4) 成果と課題

上記，研究内容について，同校では単元「21世紀の夢の小学校プラン」の実践後，次のような研究成果と課題を挙げている。

「〈成果〉

- 新しい学校が身近な地域に開設されるということから，自分たちで「21世紀の夢の小学校づくり」を考えてみようという共通意識（テーマ）を持つことにより，子ども達は興味・関心をもちながら主体的に学習に取り組むことができた。
- テーマに迫るために，夢の学校づくりをいくつかの小テーマごとにとらえることにより，個々の児童の興味・関心をさらに深化させることができた。
- 個々の児童の興味・関心別にグルーピングすることにより，児童のみならず担当する教師もクラスの枠を越えて共に学ぼうとする意欲を強く持ち，共に支えあうことのできる学習の場であった。
- 保護者へのアンケートをとることにより，保護者の学校に対する期待や要望を知ることができるとともに親子の間でテーマについて話し合う場を提供することができた。

〈課題〉

- 総合的な学習におけるグループ編成を考える必要がある。
- 総合的な学習における評価は，どのように行うべきか研究を深める必要がある。」[8)]

4. 実践法の省察

次に，実践法研究という視点から筆者の省察と解説を記述する。

(1)「生きる力」について

「総合的な学習の時間」の創設を提言したのは，第15期中央教育審議会の第1次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（平成8年7月）においてである。

その中で「生きる力」については，次のように述べている。

- いかに社会が変化しようと，自分で課題を見つけ，自ら学び，自ら主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ , 他人と協調し , 他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性
- たくましく生きるための健康と体力（再掲載）

筆者は，**「生きる力」**とは，**〈つけたい力〉**と**〈かかわる力〉**と**〈わきでる力〉**が相互に関係し合いながら育っていく力として捉えている。

それでは，それぞれの力について述べる。

①つけたい力（一般的教育ニーズに基づいた力）=（ability, capacity …）

現代社会をたくましく生きぬくとともに , 文化遺産の継承ができるようにする。

→基礎・基本の習得と，よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。

例
- 情報化時代に対応できる基礎的な力（I・T技術，コンピュ-ターの操作，インタ-ネットの活用等）
- 国際化時代に対応できる基礎的な力（外国語の習得，特に英語）
- 自分の考えを，はっきり言える力
- 辞書を引く，調べる，検索する，検査することができる力
- 判断する力・ディベードする力・マネージメントする力
- 感性及び直感力（生命や人間を中心に思考できること , 芸術を受けとめる力）
- 基礎体力・健康を保持する力，自己管理する力

②かかわる力（個と個，個と集団，集団と集団の関係にはたらく力）=（human relation …）

人は人とかかわる中で，人間性が培われていく。

→自らを律しつつ，他人と協調し，他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性の養成

例 • コミュニケーションを取ることができる。

• 今，自分たちが求めているものは何か，みんなが活動できることは何か，集中して活動していることは何か，集団での活動状況を把握できるか等，

• 大人（教師）の願いや思いを受け取ることができる。

• 相互の意思交換ができ〈信と頼の関係づくり〉ができる。

③わきでる力（個別的教育ニーズに基づいた力）=（spring …）

やる気・意欲や自発的・自主的な活動が主体的，創造的な力を醸成していく。

→自分で課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動する等

いかに社会が変化しようとそれに対応し，新しい出来事や世界等に挑戦していける力の育成

例 • その人らしさが，特に湧き出ているところ→スプリング・ポイントの発見

• 本人の求め，必要とする世界へのアプローチ

• その人らしさの発揮→「豊かな個性」の開花→スプリングスの湧出

このように**「生きる力」**は，**〈つけたい力〉**と**〈かかわる力〉**と**〈わきでる力〉**が相互に関係しあい，一人ひとりの人間の中で，総合的かつ不可分にはたらいている資質や能力として捉え直すことができる。

(2)「総合的な学習の時間」における単元活動

「総合的な学習の時間」では「生きる力」の育成のため，上記の一般的教育ニーズと個別的教育ニーズを巧みに関連させ，単元活動を集団化していく過程において，一人ひとりの活動を個別化していく。具体的には，共同のテーマ（「21 世紀夢の小学校プラン」）の下，集団（4 年生）で活動を展開し，その活動の過程で一人ひとりの良さや輝きを発見しながら指導・支援の内容・方法を一人ひとりにあわせて創っていく。つまり集団としてのテーマ意識の高揚を図り，一人ひとりの目的意識の醸成を図っていく訳である。単元活動の結果，一人ひとりの「生きる力」の成長を願い，個別的な教育ニーズを徹底的に拓いていく。このことを同校は「みんなの中で，一人ひとりに輝きを」といっている。

(3) 単元化について

それぞれの教科，領域の単元化の特徴を述べるならば，次のようになる。

①生活単元学習（融合的な指導・支援）＝子どもの生活丸抱えで単元化する。

②生活科（子どもの生活丸抱えの指導・支援）＝教科の枠組みの中で子どもの生活を単元化する。

③総合的な学習の時間（融合的な指導・支援）＝教科の枠組みを残したまま，子どもの生活を横断的・総合的に単元化する。

④各教科（教科別の指導・支援）＝学習指導要領の趣旨に基づき，子どもの発達や生活実態に応じて単元化する。

本実践例は，「総合的な学習の時間」の単元化である。本単元は，事前学習の「くらしのパトロール隊」及び本単元に引き継がれた学習（社会科等），プレゼンテーションの学習（国語科・図工科・音楽等），プレゼンテーションの時間（特別活動等），調べ学習のためのマナーの学習（道徳）等々，教科の枠組みを残したまま，子どもの生活を横断的・総合的に単元化している。

(5) 学習内容・方法・形態から見た「総合的な学習の時間」

①学習内容

「総合的な学習の時間」の学習内容は，子どもの教育的ニーズ（子どもの興味・関心等）→学習内容の選定→子どもの学習内容に応じた指導・支援（わきでる力の育成）である。

それに対し，各教科の学習内容は，学習指導要領に示されている学習内容→指導・支援法→子どもの発達や生活実態に応じた学習，ここでは，「子どもにつけたい力」を求めている。

本実践例は，子どもの新設校への興味・関心からスタートした→どのような小学校にしたいか夢を描くという目的意識を持てるようにした→夢を実現していくための調べ学習をした→グループ毎に自分たちの夢小学校プランを発表し合い目的に向かっていく活動をした→目的達成（夢の実現）のため，市長・教育長に単元活動のまとめの「21 世紀夢の小学校プラン」の手紙を届ける活動をした。このような学習内容を含んでいる。

②学習方法

「総合的な学習の時間」の学習方法は，課題解決のための学習支援法である。それは，子ども主体の学習を中心にした体験を重視した学習であり，子ども同士・子どもと教師が共に創りあげていく学習である。

本実践例は，単元のスタートとして，夢の小学校プランを作成するため，子どもたちのアイ

ディアや発想を大切にし，子どもたちからのアンケート等を取っている。その結果，子どもたちの発想の豊かさや頭の柔らかさに教師たちが驚き，感動している。そのアンケートに基づいて夢の実現のため調べ学習を実施することになるが，調べ学習のためのグルーピングには教師のコントロールが入ったが，それ以外は，子どもたちの自主的・自発的な活動に任せている。また，調べ学習をしている間は，子どもたちの課題に対する理解の程度に合わせて，試行錯誤の機会を保障したり，新たなチャレンジへの時間を確保したりして柔軟な対応をしている。そして調べ学習の結果は，各グループとも多様で個性的な内容が出来上がった。発表の仕方も工夫している

グループには，支援の手を差し伸べたが，できるだけ子どもたちの主体性に任せていた。

子どもたちは，自分たちがまとめた結果に満足していたようである。学習公開の日には，自信をもって保護者の前で，プレゼンテーションをしていた。

③学習形態

「総合的な学習の時間」は，例えば，スーパーマーケット型学習形態といえる。スーパーマーケットは，お客のニーズに応じて，商品を取り揃える。旬や流行に合わせて店のレイアウトや品揃えを変化させる形態の店である。

総合的な学習の時間は，子どもの教育的ニーズに応じて，何でも取り揃えて学習できるようにする形態である。その形態は，各学校・各学年・各学級・各集団等の自由裁量に任されている。

それに対し，各教科は，デパートメント型学習形態といえる。デパートは，優良専門店の集合体である。

教科は，専門性に基づいた学習内容（学習指導要領の趣旨に基づくもの）に即し子どもたちの発達段階や生活実態に応じて学習する形態である。

本実践例では，子どもたちが学習を進めるに当たり，子どもたちの興味・関心や，ニーズに応じてアンケート・絵・紙芝居・設計図・模型・ＯＨＰ・ビデオ・デジカメ・劇・新聞・実演・インタビュー・歌・ペープサート等々学習素材を豊富に用意していた。

また，次のように学習課題に応じて，学習形態を柔軟に変容させている。

第１次	オリエンテーリング，	（学年集団）
	チーム毎にテーマを決める	（テーマ別集団）
第２次	テーマにそって調べ学習をする。	（テーマ別集団）
	夢の学校になるようまとめをする。	（テーマ別集団）
第３次	夢の学校を発表する。「学習公開」ブース毎に発表	（テーマ別集団）

第４次　「21 世紀夢の小学校プラン」のまとめをする。　（学年集団）
　　計画書を作り，市長，教育長に提言する。　（代表集団）

本単元は，将に，子どもたちの教育的ニーズに応じたスーパーマーケット型の学習形態を取っている。

(6)「総合的な学習の時間」の評価

以上のような視点に立って「総合的な学習の時間」の実践を行なうわけであるがその際，一人ひとりの子どもたちの教育的ニーズを十分吟味し，それに即した学習内容・方法・形態の計画・実行・評価に心がけねばならない。そして，「生きる力」の育成と関連づけて指導・支援することが重要である。

評価については，過去の教育の世界では相対的評価が主流であったが，現在は，本人の到達点を評価する絶対的評価に変わってきている。しかし，本人の意欲や自主性・主体性が現れている姿，出会った課題を解決しているときの姿，自分らしさを出し切っている姿，他人と協調している姿，健康に対し自己管理している姿，体力づくりを努力している姿等々，「自立と自律」「個性と共生」「健康・体力」等を評価する場合には，子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた個人内評価に心がけねばならない。そして，「生きる力」の育成と関連づけて評価することが肝要である。

筆者は，評価の観点を次のようにとらえている。

評価の観点

①課題解決について
- めあてや　見通しをもって活動できたか

②問題解決について
- 首尾よくやり遂げることができたか

③学び方やものの考え方について
- 活動（調べること等）に没頭できたか
- 活動（調べたこと等）をまとめられたか
- まとめたことを発表できたか
- 自ら計画し，実行し，評価することができたか

④学習の取り組み方について（生き生きと活動している姿を見て取る）

〇主体的・自立的な活動
- 自分の活動が分かり，納得して活動していたか

• 自分の力を出し切って活動していたか
• 活動に集中し，持続して活動していたか
• その子らしさを出し，自信を持って活動していたか
• 満足感・成就感を味わって活動していたか
• かけがえのない存在として認められ，共に活動していたか
○発想のひらめきや創造的な活動について
• 新しい発見があったか
• 工夫のあとが見られたか
• 次の活動への手がかりをつかんだか

⑤自己の生き方について
• 頼らず自分の力でできたか
• 自分らしさを出すことができたか
• ○○の価値判断ができたか
• 自分の思いを表現できるようになったか
• 自分の将来について考えられるようになったか

項目全部を取り上げるのでなく，あてはまる項目を取り上げ評価する。児童の行動は，本来統合的なものである。必ずしも分析的に明確に評価することは容易ではない。したがって，評価の観点は，児童がその子らしく特に輝いているところ（スプリング・ポイント）を観て取るということになる。

本実践例では，前述の「2. 子どもたちの活動の様子」[5] 詳しく記述されているので，参照してほしい。同校の教師方の評価は，筆者の評価の観点からずれることなく，子どもたちが生き生きと活動している姿を的確に見て取っていた。

おわりに

本単元「21 世紀夢の小学校プラン」は，ただ単に南部小学校のみの実践で成立した訳ではない。多くの協力者ならび関係諸機関の協力と支援の賜物である。

夢プランアンケートに協力いただいた 4 学年の保護者の方々，薬草についての資料を提供していただいた近所の薬局の方，製作用の段ボールをたくさん提供してくださった地域の商店街の方々，バリアフリーの情報を提供してくださった視覚障害者の方，車椅子等の借用を快く引

き受けてくれた野田市社会福祉協議会及び野田特別支援学校の方々，子どもたちの様々なインタビューに応じてくれた地域の方々や校長はじめ学校の先生方，発表のための掲示用コンテナパネルをお借りした南部梅郷公民館の方々，市役所の方への質問に丁寧に対応してくれた野田市教育委員会教育総務課長等，本単元のまとめの「21 世紀夢の小学校プラン」の手紙を優しく受け取っていただいた野田市長・野田市教育委員会教育長，地域の方々に支えられた「総合的な学習の時間」の単元「21 世紀夢の小学校プラン」の活動であった。皆様の支えのお蔭で本単元は，総合の総合たる真の意味の「総合的な学習の時間」となった。

振り返って見ると，野田市南部地区の地域力の高さに改めて驚く。子どもたちの充実した活動を支えていただいたことに感謝する。このような支えの結果，この単元が終了したときに発した子どもたちの満足そうな笑顔が忘れられない。

引用文献

1）猪瀬義明・本田洋治郎監修，2001，『研究紀要』，野田市立南部小学校，巻頭言
以下，［研究紀要］と略記する。
2）［研究紀要］p.79
3）［研究紀要］pp.80–81
4）［研究紀要］p.81
5）［研究紀要］pp.86–87
6）［研究紀要］pp.1–2
7）［研究紀要］p.87
8）［研究紀要］p.87

参考文献

猪瀬義明・本田洋治郎監修，2001，『研究紀要』，野田市立南部小学校
児島邦宏・村上雅弘編，2010，『小学校ウェビングによる総合的学習実践ガイド』，教育出版
文部省，1999，『小学校学習指導要領解説　総則編』，東京書籍